

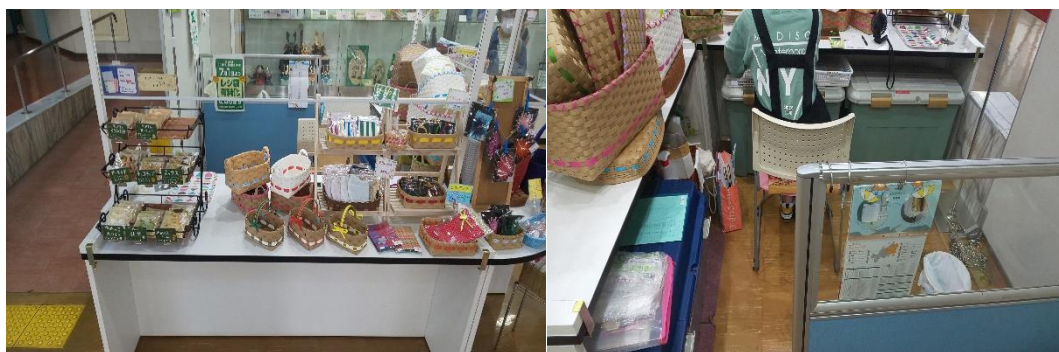
ちょっと、隣をのぞいてきました・松伏町と千葉県野田市

2021.5.18 菊池、今井、竹迫、小松

【松伏町役場】

生活介護事業所「心」・社会福祉法人ゆめみ野工房・かるがもセンターの3箇所が順番に店番を担当し、残りの団体の商品も一緒に販売している。正面に担当団体の商品を置いたり配置は店番毎に変わっている。

見学時の担当は「心」の職員さん。アポなし訪問の質問に答えてくれました。緊急事態宣言（去年）からメンバーによる店頭販売は休んでもらい、職員が店番に。10:00-14:00が営業時間で「心」では午前と午後で店番交代している。商品は店番の人が宅配ボックスの様な箱にしまって施錠している。釣銭は当番の団体が持ってきて各団体の売上を記録・計算して渡す。食品があると回収して届けに行く。引き継ぎ用の連絡ノートはある。



「心」は地域活動支援センターから生活介護事業所になった。10人位。高校卒業の18歳からその人に合わせて作業工程は分担して皆が関わる。コースター、マスク、ブレスレット、コサージュ、カゴ等。クラフトテープ（紙）が売りらしい。

松伏町立かるがもセンターは作業訓練および生活支援を行う社会福祉法人松伏町社会福祉協議会。作業で作る自主製品のかるちゃん石けんを中心にビーズアクセサリ類が並んでいた。

ゆめみ野工房就労移行支援と就労継続支援 B があり店番の時はパンの販売も。委託の際はクッキー、マスクケース、ギフトバッグ等を陳列。



【野田市役所】

パンと焼き菓子の販売をしていたのは社会福祉法人は一とふる・野田市立あすなろ職業指導所の職員さん。こちらアポなし訪問で質問をしました。就労継続支援 B と生活介護があり、あすなろベーカリーの製品販売へ。就労を目指し移動もある。コロナの影響でこちらも職員さんだけなのかと思ったが人員不足のため利用者は生産の方だけだそうで。全部で60人位在籍。作業は6人位で行う。皆プロで職員の方が間違いの指摘をされる。並んでいたパンは創作パンもあり種類も多く再度利用したくなるラインナップだった。



喫茶スペースは同じ就労サポートは一とふるの就労移行支援事業（せんげん台世一緒と同じ）。「ふれあい喫茶つくしんぼ」お昼時だったのでほぼ満席の為空くのを待って利用。食後同じくアポなし質問を。野田市内に2店舗あるらしい。



登録数が多いが店番は5人。精神、知的障害、身体。基本希望ポジションに配置。現在厨房希望者はいない為厨房内はボランティアさんのみ。職員が店番シフト作成。メンバーの体力に応じて勤務時間も考慮。スタッフ配置はサービス管理責任者が作成。見学日の構成は職員3人、メンバー4人、ボランティアスタッフ。ボランティアは手を繋ぐ親の会主体で無償。運営してく上で人件費が賄えなくなると。売上は1万前後だがほぼ材料費で消えるため利益は出ない。工賃は出るが就業訓練なので利益は出てない。コ

ロナで席を間引いているのでお弁当販売を始めた。そのためお弁当を喫茶内で食べる事はできない。最大10個程の販売。廃棄が出るとマイナスになってしまう。

レジは本来カウンター横だが車椅子の人が入る時は特設レジを用意。送迎は無い。就労移行なので就職した時を想定して自力で通勤。訓練場所は色んな所にあつて、清掃やリサイクル工場もある。利用者の希望により1人で作業したり職員が付いたりする。



入口に陳列されている商品は農協から仕入れた物。